



ボートを船わずとも完全に固定できる。



船底へのダメージも軽減させられる。



Vリフトの構成パーツ。けっこう大きい(笑)。



エアータンクは分割構造となる。



エア注入・排気のパルプユニット。

や空気圧低下等によるトラブルは、タンクモニタリングシステムによって、万が一空気漏れがあった際にも自動的にそれを感知し、吸気の供給を行うことで解消させた。電源はAC、ソーラーパワーによる稼働も実現している。陸電の供給ができない場所での使用もソーラーパワーを用いれば問題なし。付属のフリーメンテナンスバッテリーに蓄電でき、モーターの交換もワンタッチのできる。動力部分に関しても面倒なメンテナンス等の必要がない。エアータンクはVL7015で4つ、VL11022で6つを有しているが、エアータンクの増設によってボートのサイズアップにも対応している。また、ボートを上下架させる際にリフトがボートを自動的にセンターに移動させるので、簡単かつ安全に停泊させることを可能としている。Vリフトにボートを載せ、上架させればボート自体の固定は必要なく(通常使用時)、ロープワークやフェンダー固定なども必要なし。エアータンク自体がフェンダーの役割を持ち、ボートをしっかりガードしてくれる。Vリフトの操作は、付属のリモコン1つで簡単に操作できるのもうれしい。非常にイージーかつ安全にボートライフをサポートしてくれる、それがVリフトなのである。

上架した状態のボートをリモコン操作で

Vリフトをダウン。そしてボートに乗り込みマリーナを出港。ボートینگを楽しんだ後はまたマリーナに戻り、Vリフトを下げた状態でボートを載せ、上架。船底部分にもたっぷりと水洗してボートینگは終了……。Vリフトを使用したボートライフをシミュレーションしてみると、こんな感じであろうか？ロープワークや着岸時のアプローチがスポイルされるだけでも、より海へのアプローチが身近になるとはいえないだろうか？さらに、ボートへのダメージも軽減させられるし、上下架の煩わしい時間もないのは大きなアドバンテージといえるだろう。あまりにイージーになり過ぎて、別の立ち寄り場所に行く際にロープワークやフェンダー設置を忘れてしまわないように……あくまで「マイホームボート」だけです。Vリフトの設置場所は(笑)。

文=大沼 寛
text by ONMA Hiroshi

取材協力
(株)ジェイエスピー RESUCO (レスコ) 事業部
問い合わせ先
(株)ジェイエスピー RESUCO (レスコ) 事業部
[ADD] 愛知県額田郡幸田町深溝大角豆田1-6
[TEL] 0564-56-0001
[URL] www.resuco.com



レスコの日本総輸入販売元となる(株)ジェイエスピー。Vリフトの他にもレスコ商品を扱うエキスパートである。

SPECIFICATIONS

VL7015

許容重量	3,175kg
リフトスピード	120秒
ランチスピード	75秒
タンク	4
最大幅	2.62m 2.93m with WE12
最少設置可能幅	3.05m 3.35m with WE12
全長	4.57m
重量	405kg
リモートコントロール	含
AC電源	含

VL11022

許容重量	4,990kg
リフトスピード	120秒
ランチスピード	75秒
タンク	6
最大幅	2.62m 2.93m with WE12
最少設置可能幅	3.05m 3.35m with WE12
全長	6.71m
重量	694kg
リモートコントロール	含
AC電源	含